

# 千変万化 狂言 《附子》

— 過去・現在・未来 —

2020.3.14(土) 13:30～17:00 (13:00開場)

法政大学 市ヶ谷キャンパス  
ボアソナードタワー26階 スカイホール

入場無料・定員120名・専用フォームにて申し込み(申込方法は裏面参照)

13:30～14:10 「狂言《附子》復習・予習」 伊海孝充(法政大学文学部)

14:10～15:10 「『附子』はどこから来たのか？」 鈴木靖(法政大学国際文化学部)

※上記2つの講演は手話による内容解説付。(手話:法政大学手話サークル わたがし)

15:30～16:00 【実演】手話狂言《附子》日本ろう者劇団

演出・指導:三宅右近(和泉流狂言方)

16:00～17:00 【座談】三宅近成(和泉流狂言方)・江副悟史(日本ろう者劇団、劇団代表)

鈴木靖・伊海孝充 ※手話通訳付。



協力:三宅狂言会・社会福祉法人トット基金 日本ろう者劇団・法政大学手話サークル わたがし  
主催:法政大学能楽研究所「能楽の国際・学際的研究拠点」



狂言の笑いの種は日本中世にあります、その源泉は遠く大陸にも繋がっています。古代中国には狂言に類似した笑話が存在していました。この笑話をもとに《附子》を眺めると、狂言の新たな特徴が浮かび上がってきます。また、狂言を構成する所作・舞と声の芸の間に手話という言語表現を介在させると、狂言でありながら狂言には見られない新たな魅力も現れてきます。この二つの視点から、国際化や多様性が求められるダイバーシティ時代における狂言の可能性を探っていきます。

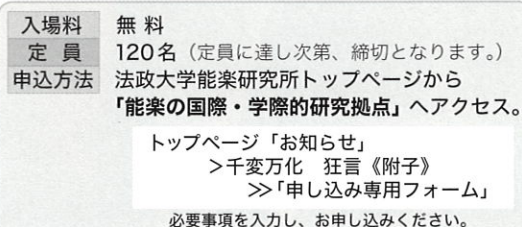
和泉流狂言方三宅右近を中心とする会。三宅右近：九世三宅藤九郎(人間国宝)の次男。父に師事。重要無形文化財総合指定保持者。日本能楽会および能楽協会会員。30年以上にわたり手話狂言の指導に尽力。三宅右矩：三宅右近の長男。父に師事。能楽協会会員。三宅近成：三宅右近の次男。父に師事。能楽協会会員。

和泉流狂言方三宅右近師の指導のもと、狂言特有の動き、運び足をそのままに、手話のセリフと声のタイミングや間の取り方等の手話表現の研究を重ね、古典芸能の強靱さと手話の豊かな表現力をあわせもつ、手話狂言が誕生。台詞を手話で表情豊かに表現し、声のセリフをアテレコすることにより、聞こえる人も聞こえない人も共に楽しむ工夫がなされている。

2000年設立。他大学や地域の手話サークルとの交流、近隣高校で手話講座などを行なう。

法政大学国際文化学部教授。専門は中国文学・芸能。日本中国学会、日本中国語学会会員。論文に「敦煌写本『啓顔録』について～狂言『附子』の淵源を明らかにした唐代の古写本」（能楽研究第40号 2015年）、「狂言『鏡男』考」（能楽研究第43号、2018年）など。

法政大学文学部教授。専門は能楽研究。著書に『切合能の研究』（檜書店、2011年）など。



● JR総武線・東京メトロ有楽町線・南北線の市ヶ谷駅または飯田橋駅下車、徒歩10分。 ● 都営新宿線市ヶ谷駅下車、徒歩10分。 ● 東京メトロ東西線・都営大江戸線飯田橋駅下車、徒歩10分。